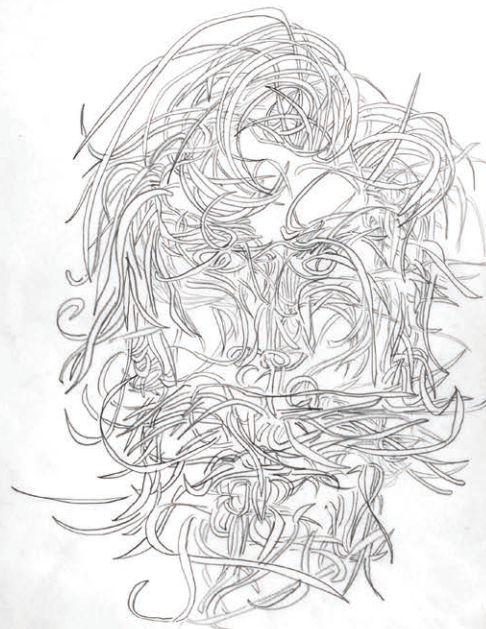


# 隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第16回

森の彫刻家 上床利秋

## 恩師からの手紙



2年5組5番 上床利秋

桜が咲き誇る季節です。日々 研鑽の心で思  
います。今また作品集を見え、立派な業績に心か  
ら敬意を表したいと思います。

“私は石を彫ること自体が好きだ。石の形と削得  
で作りだされるのが好きだ。……私には  
この時こそ生きている実感……”  
(画集の序文)

作品の中に一息で流れていく作家の心がま  
まに、鮮やかに描かれ、内面の追求、そして牧歌的  
な愛の眼差しへと展開していく作品の美しさ

開花を期待します。

以前、話していた高校時代の作品です。引越して  
いろいろあったが、何故か大事に保管していたです。

授業でFACEというテーマを描いた記憶が  
あります。返却しなかったのは、資料として、参考作品として利  
用したいと思っただけです。この作品は、貴君の今日の3  
を予期していたのを覚えています。

ますますご発展、ご健勝を祈ります。

3月31日

関好明

上床利秋様

関好明先生は画家で元高校教師。私の自慢の恩師です。その先生から私が高校時代に描いたドローイングと手紙が届いたことがあります。すっかり忘れていた44年前の記憶が蘇り、懐かしく思うと同時に先生に感謝。嬉しい出来事でした。

ドローイングのことはもとより、先生のお気持ち私に忘れぬ宝物です。そして、やっぱり関先生は凄い。(今回はその手紙とドローイングを掲載します)

桜が咲き誇る季節です。日々研鑽のこと  
と思います。今また作品集を見て立派な業  
績に心から敬意を表しているところです。

”私は石を彫ること自体が好きだ。石の  
形を納得できるまでこだわるのが好き  
だ……私にはこのひとときこそ生きてい  
るという実感を……”(画集の中より)

作品の中に一貫して流れている作家の  
心が素晴らしい。飛翔する心から内面の追  
求、そして牧歌的な愛の眼差しへと展開し  
ている作品のさらなる開花を期待します。

以前、話していた高校の時の作品です。  
引越などいろいろあったが何故か大  
事に保管していたのです。

授業でFACEというテーマで描いて  
もらった記憶があります。返却しなかつた  
のは資料として、また、参考作品として利  
用したいと思ったからのようです。この作  
品は貴君の今日あるのを予期していたの  
かもしれません。

益々のご発展、ご健勝を祈ります。

3月31日

関好明

上床利秋様